

皮革衣料品の手入れ

皮の弱点は熱と水

皮のジャンパーやコート、ジャケットなどの皮革の衣料品は、寒い冬には大変貴重なものです。しかし、木綿や化繊の衣類に比べ、家庭での手入れが少々つかいずです。

皮の弱点は熱と水。50度を超える熱に当たると、固くなったり、縮んだりすることがあります。また、水気にも弱く、湿気を持つと表面にカビが発生しやすくなります。皮革衣料品が雨に当たったら、すぐにふき取るようにしてください。

汚れや染みもかびの発生原因になります。外出先から帰ってきたら、時間をおかずブラッシングするか、柔らかい布でふくようにしましょう。特に、えりやそで口は汚れやすいので、丁寧にふいてください。眼鏡のレンズふき用の布を使うと効果的です。



少しくらいの汚れなら、まず固く絞った濡れタオルで、その後、乾いたタオルでよくふいてください。ひどい汚れを落とすには、水1ℓに液体中性洗剤小さじ半分を溶かし、その水溶液に浸したタオルを固く絞り、少しずつ丁寧にふきます。さらに、固く絞った濡れタオルで、その後を乾いたタオルでよくふきます。

皮革専用のクリーナーでも汚れを落とせますが、色落ちの危険がありますから、皮革に合うかどうかを必ず試してから使用しましょう。

糖尿病と眼合併症

健康一番



今月のドクター
蒲郡市民病院 眼科
吉田 朋子 医師

糖尿病の三大合併症：腎症、神経症、網膜症のうち、網膜症は眼の合併症です。糖尿病網膜症とは、眼底に出血するなどの異常をきたす疾患で、未治療で放置すると、失明してしまうこともある恐ろしい病気です。

網膜症にかかっても、初めのうちはまったく自覚症状がなく、知らないうちに進行していきます。視力低下に気づくころには、かなり網膜症は進行しており、この段階で治療を始めても視力の回復が望めないこともあります。

具体的に網膜症の治療ですが、軽症のものなら

血糖値のコントロールによって改善しますが、ある程度進行した場合には、網膜光凝固術という、レーザー光線による治療が必要になります。糖尿病のコントロールが悪かったり未治療の状態では重症の網膜症になってしまった場合には手術が必要となり、視力の回復は見込めません。ですから糖尿病と診断されたら、必ず眼科を受診しましょう。

そこで眼底に異常がないといわれても、1年に1〜2回は、眼科を受診されることをお勧めします。もし異常が見つかった場合は、眼科医の指示にしたがってください。